

W I N G E S S A Y

DENTAL WING Co.,LTD

—2017年 5月号—

☆新年度、新学期も始まり春も本番を迎えました。真新しいランドセル背負って通学する姿がなんとも可愛い季節です。そして、間もなくゴールデンウィークを迎えます。色々なご予定もあり、それぞれ楽しみにされているのだと思います。どうぞ楽しい連休をお過ごし下さい。

☆それにしても、相変わらず悲惨な事件が続きますね。しかも、事件の内容がなんとも残虐というか、唾然としてしまいます。これも、時代の流れと言って済まされる問題ではありません。人として性を戴いた以上、人それぞれの人間性を発揮して生きなければなりません。では、人間性ってなんでしょう。それは、その人の精神であったり意識ですね。

この人間性を古典では、「五常」といって、仁・義・礼・智・信の五つの大切さを説きます。仁、これは自分の周りの人に対する思いやりや行いのこと。義は、私利私欲を抑えて公益のために働くこと。礼は、社会の秩序など人として持つべき規範のことです。智は、私たち人間に与えられた英知そのものです。信とは、嘘がない、人を欺かないことです。

そして、人間性ともう一つ大切な社会性というものがあります。この二つを学ぶことを人間学と言います。では、もう一つの社会性ってなんでしょう。これは、「五倫」と言われ、父子の親、君臣の義、夫婦の別、長幼の序、盟友の信の五つです。社会は、次の三つの人間関係、つまり上司や目上の人との関係、部下との関係、同僚との関係を教えているものです。

そして、人間性の「五常」と社会性の「五倫」をつなぐ「五教」という教えがあって、父は義、母は慈、兄は友、弟は恭、子は孝で、それぞれ役割があってそれを求められているということです。

その昔、15才の元服までに確率すべき教えとして学んでいたというのですから、いまと比較すると、なんとなく人間性も社会性も変わるのが当然のような気がします。

例えばですが、いまの時代「待つこと」が出来なくなったというか、待つことが必要なくなりましたよね。連絡もネットや携帯やスマホで瞬時に可能。便利と言えば確かに便利なのですが、そこに考えると、慮るとかいうか、大切な感情が芽生えないような環境に生きているような気がします。

どんな時代になろうと、人として生かされている以上、人としての根本、つまり人間性と社会性を学ぶ毎日でありたいですし、そこを何より大切にしておきたいものです。

本当の豊かさとは、そこにあるのだと思います。

歳を重ねるたびに、人としての妙味が滲み出る、そんな晩年の未来でありたいものです。

